加藤一夫

15　自

15

加藤一夫

くつついて行くことをばかり念じては居なかつた。自然主義が隆盛であるとき、僕はヒユーマニストであつた。トルストイ熱~~は~~が盛んになつたときは既に、僕は民衆藝術の提唱に餘念がなかつた。民衆詩人が「日本詩人」を占領する頃には僕は既にプロレタリア藝術の提唱者であり、プロレタリアのための勇敢な闘士でさへあつた。―――今や~~僕は社会主義には満足が~~僕は、ただ狭義的社会主義思想のリヤリズムや一兵卒張りの藝術には満足が出来なくなつて更に新しい境地の開拓に進んで居る。

加藤一夫原稿用紙